

多士彩々

ニュースに使われている言葉を分析し、市場の心理を数値で表す研究が実用段階に入った。最前線を走るのが運用助言会社マグネマックス・キャピタル・マネジメントの最高経営責任者（CEO）、岡田克彦氏。日本人ではヘッジファンド設立の草分けで、トレーダーとして長く市場に関わってきた。

トレーダーとしてのキャリアは米国で始まった。

「米国の大学を卒業し、1990年にモルガン・スタンレーに入りました。ヘッジファンドの日本株売買の

注文をさばく役割でしたが、電話で怒鳴られるのが仕事のようなもの。著名投資家ポール・チューダー・ジョンズ氏なんて、私の発注が1秒遅れたと言ってはあらん限りの罵詈（ぱり）雑言です」

「トレーダーとして2年ほどキャリアを積んだ頃、UBSが東京にトレーディング拠点を立ち上げる計画に誘われ転職。帰国しました。創設メンバーとしてひともうけしようと、リスクの高い取引を始めました。例えば、朝9時に場が開く直前に巨額の売買注文を出して相場の方向性を変え、利益を出

す取引です。板の状況を見て、ライバルがどんな注文を入れてくるかギリギリまで推測します。1秒を巡る戦いですが、2億～3億円稼ぐこともあります」

「スイス人社員に煙たがられ、日本人社員が大きなリスクを取っていると本社に報告されてしまいました。当時のUBSトップが日本に来たとき『スイスの銀行は富裕層のお金を探かるだけで食っていく。リスクを取る必要

はない』とクギを刺されました。ところが、私のチームは年間70億円以上稼ぎ、全世界のUBSで最も利益を上げていました。雑音はいつの間にか消え、自由に取引できるようになりました」

97年にはUBSの仲間3人とシンガポールで日本株を取り扱うヘッジファンド「ハルバディア」を設立する。

「ヘッジファンドの設立は、おそらく日本人として初めてです。運用を始めるに当たって少なくとも10億円を集めが必要があったのですが、心配していました。何人かの富裕層が『君が独立したときは50億円くらい出すよ』と言ってくれていたのです。ところが、いざ独立すると誰も資金を出しません。UBSの看板がなくなると態度が変わるんですね」

「設立メンバーが自分の預金を下ろし、友人にも頼み込んでお金を集めましたが、それ

でも足りない。ダメもとで、私が欧州の富裕層を回ることになりました。スイスのあるチョコレート会社のオーナーの資産管理会社で説明すると『君のオフィスを見に行きたい』と運用担当者に言われました」

「シンガポールにある私たちのオフィスは古い雑居ビルの中にあり、イケアで買ってきた安い家具を使っていました。恥ずかしいなと思いつながら案内すると、一目見て億単位のお金を出してくれました。質素なのが気に入ったそうです。ようやく運用にこぎ着けました」

用は順風だったが、投資の世界から離れることを決意する。

「設立から4年で運用額は10倍の100億円になり、それなりに有名なファンドに育ちました。順風満帆でしたが仕事に飽きてきました。トレーダーは、買って売るという同じ事の繰り返しです。同時に理論通りに動かない市場に学問的な興味も湧いてきました。市場を支配する『心理』とは何なのかと。これを解明すれば、新しい投資理論を築けるのではないかと思ったのです。お金もたまたまので、故郷の神戸に戻り、大学に入ることにしました」



おかだ・かつひこ
1990年ワシントン大学
大学院経営学修士号
(MBA)、2006年神戸大学大学院修了。経営学博士。関西学院大
教授も務める。母と妻、娘2人の女性4人に囲まれて暮らす。1963年
神戸市出身。趣味はバイク。

ビッグデータ生かし投資

「大学生として勉強していたある日、突然、貯金がゼロになりました。小遣い稼ぎのために投資をしていたのですが、発注単位を間違えてしましました。トレーダーは電話で売買しますが、個人投資家になってからはパソコン操作です。慣れていたんですね。何年も働いてためた億単位のお金を数秒でなくしたのです。ただその直後、運良く大学に就職でき、生活が破綻することはありませんでした」

「アカデミズムの世界に入り、理系

の研究者と出会ったのは収穫でした。使えそうな解析手法をたくさん教えてもらいました。ニュースで使われる言葉から市場の心理を量量化するビッグデータの研究を本格的に始めました」

2011年、マグネマックスを設立。ビッグデータを投資に生かす試みへ踏み出す。

「ようやく実用段階に入っています。三菱UFJ信託銀行が募集開始を視野に試験運用しているビッグデータ活用ファンドにシステムを提供していま

す。三菱UFJ信託の成川順一常務執行役員が、たまたま私の研究に目を付けてくれたんです」

「売買の判断はユニークです。例えば、ある企業が業績の上方修正など良いニュースを発表した瞬間、発表の前に市場の期待がどれだけ高まっていたかを過去のニュースの言葉から分析します。期待値が低ければ、上昇余地があると判断し、その銘柄を買います」

「テスト段階では東証株価指数(TOPIX)のパフォーマンスを上回っています。自分の理論が、現実の投資でも生かせることを証明したいと思っています」

（大酒丈典）